

ステンドグラス風アートに挑戦

八学短大生ら、子ども向けワークショップ

ステンドグラス風の作品を作り上げる子ども



八戸市美術館で25日、八戸学院大短期大 学部幼児保育学科の教員と学生による子ども向けワークショップが開かれた。参加した子どもたちは、切り絵を使ったステンドグラス

風のアート作品制作に挑戦。好きな形に紙を切ったり、色を塗ったりして、思い思いの作品を仕上げた。

市委託の「大学資産を活用したアートの学び事業」の一環。同学

科講師の渡邊雄介さんと1年生3人が講師を務めた。

ワークショップには2〜11歳の子どもとその保護者計44人が参加。折り紙を使って切り絵を制作し、ラミネート加工を施した後、裏側から色を塗り、ステンドグラス風の作品に仕上げた。子どもたちは夢中になって紙を切ったり、色を塗ったりして、個性あふれる作品を作り上げた。

参加した市立長者小1年の小久保祐来さん（7）は「色の組み合わせが難しかったけど、出来上がったらかいに見えて良かった」と笑顔。同科1年の大館怜奈さん（10）は「子どもたちの発想力に驚いた。出来上がりを見て、こんなができるんだとたくさん発言があった」と話した。

（同屋敷明）